

相国寺御用達

京菓菓

雲龍

雲龍は相国寺に保存されている狩野洞春の龍画に感銘を受け創作した、京菓匠・俵屋吉富の代表的な名菓です。雲龍の奥深い旨さの秘密、それは精選された材料と、一本一本心をこめて巻いていく手づくりの味にあります。心をこめた贈り物に幸福を呼ぶ雲龍をどうぞ……。



平成二十四年 正月号 (第九十七号)

図明

大本山相国寺
相国会本部



迎春日

平成二十四年 壬辰

◆表紙写真

重要文化財「**燔龍図**」法堂 天井画 狩野光信筆 相国寺

龍は仏法を守護し、龍神・龍王などとも呼ばれ、水を司る神でもある。「火除けの神」としての意味合いからも、禅宗の法堂天井画には龍が描かれるのである。

相国寺の法堂は、慶長十年（一六〇五）に豊臣秀頼の奇進により再建され、その際に狩野永徳の長男光信によつて描かれた現存最古のものである。

辰年の本年も法堂参拝者を守護するべく、天井よりまさに「八方睨み」をきかせている。



歳旦祝語

管長 大龍窟 有馬頼底

平成二十四壬辰年

歳旦

天下叢林興盛時
宗門曲調付若鶴
欲知之要三玄事
同取梅花一兩枝
大龍叟

平成二十四壬辰年

歳旦

天下の叢林、興盛の時

宗門の曲調、黄鸝に付す

三要三玄の事を知らんと欲せば

梅花一兩枝に問取せよ

大龍叟

天下の禪がさかえる時

宗門の曲調はうぐいすが知る

禅の真の教えを知ろうとするなら

梅花一、二枝に聞いてみよ

興善寺

9月27日



記念品を受ける周藤隆道住職



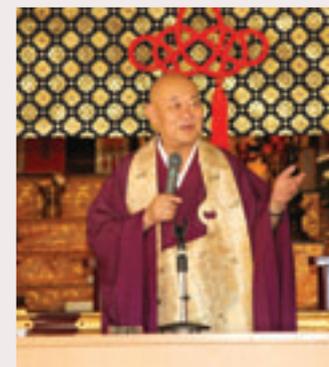
代表原治雄氏謝辞

西光院

9月27日



記念品を受ける金森則融住職



総代黒田儀重氏謝辞

萬福寺

9月28日



矢野教学部長挨拶



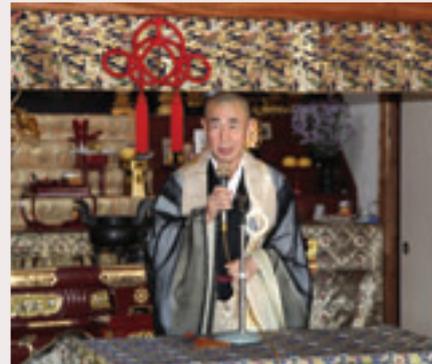
記念品を受ける福場宗康住職



代表鶴原敬之氏謝辞

東光寺

9月27日



山木宗務総長挨拶



記念品を受ける勝部大義住職



総代勝部哲郎氏謝辞

南苑寺

9月29日



記念品を受ける小野塚越山住職



代表岸田真孝氏謝辞

靈雲寺

9月28日



記念品を受ける三代政道住職



代表金森勝之氏謝辞

謹賀新年



管長 大龍窟 有馬頼底

新年のご祝詞謹んで申し上げます。

昨年はまさに災害の年でありましたが、本年は辰年であります。昇り龍でありたいと願うものであります。只今方丈の大修理中ですが、完成が待たれます。それと言うも、明治天皇に献上しました伊藤若冲の「動植綵絵三十幅」が、

カラーコロタイプでの複製の許可を、宮内庁からいただき、本年の四月に総てが完成するからであります。これは宮内庁の許可の条件が「観音懺法会」に掛けるのみであれば、ということ、したがって方丈の完成が待たれるのであります。そうすると百二十年振りの懺法会となり、目出度い事であります。

本年は海外出張もあります。まず四月にワシントン行きとなります。尾崎行雄（愕堂）という政治家が桜の木を寄贈して以来今年が百年目に当り、大きなイベントをやることで、その折に例の若冲の三十幅を出品することとなり、

そうになると本山の釋迦、文殊、普賢の三幅対を出品してほしいと申し越され、出品することにする予定であります。

それについてアメリカの要望は、三日間に渡り法要を厳修してほしいとのことで、本山から数名は出頭せねばなるまいという事になりそうです。末寺の方々も我もという方は振って御参加されたいと思います。

分かりきったことですが、人生決して平坦ではありません。逆境を乗り越え日々心穏やかに生きるか、その智慧がたくさん詰まっているのが禅の教えであります。どうか勇気をもって今年を乗り越えてまいりましょう。

年頭御挨拶



宗務総長 山木康稔

明けましておめでとうございます。ご健勝にて新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

新内局発足後初めて迎えました正月で、旧年中は皆様からの御支援のもと、有難くも早や八か月が無事経過致しました。年頭に際し内局一同気を引きしめてスタート致したく存じます。

さて昨年を顧みますと、法堂の西側、通路をはさんで総檜造りの鐘楼が完成して、「天響楼」と管長猥下により銘名されました。梵鐘は、平成二十二年に中国河南省開封・大相国寺（六世紀創建）サイドで鑄造されて、京都・萬年山相国寺へは全年初秋に友好の梵鐘として寄進されました。

然るに、八月一日祝聖、山門施餓鬼終了後、鐘楼・梵鐘の落慶法要・除幕式が厳

修されて、管長猥下を筆頭に、一山の尊宿、本山総代さん方、工事関係者など、順次撞き初めが為されました。当の梵鐘は銅製で、正に圧倒される大きさで、高さ二・五メートル、重さ三・五トンで裾の部分が反った形になって、撞座の正面には「友好記念鐘」とやや大きめの銘が、その左側から時計廻りに般若心経(註)が読み取れます。重厚な音色が特徴で、「世界中に平和をもたらす鐘として、永く撞いていただきたい」との管長猥下のお言葉もありました。

(注) 諸法皆空を説く。最後のタラニの部分が、特訳では

皆んなでいっしょに渡ろう理想の彼岸(み仏の世界・安らぎの世界)へ。仲良く平和に暮らせる幸せの世界をつくって参りましょう。という意味に解されています。

尚、全月二十三日には、偶然にも、中国佛教会の傳印会長ご一行二十七名様が、相国寺を表敬訪問して下さり、さいわい開封大相国寺の方丈釋心廣法師も団員のお一人として加わっておいででした。お出迎えは、一山及内局が庫裏前で行い、承天閣の二階で待機の管長猥下と傳印会長とが、感激の再会をなさり、とくに会長は東日本大震災を我がことのように受けとめ、「逝去なされた方々のご冥福を祈ります」と同時に多大な支援により復興の早からんことを願っています」と、ご挨拶され、心廣法師ほかの方々のスピーチも続きました。此の場には、臨済宗合議所事務局長梅承昭

天龍寺派宗務総長も来山同席されました。この後ご一行は、真新しい天響楼に至り梵鐘を撞かれて、銘にある通り、ここで日中共に平和を念じ、更なる友好を誓い合い、握手も交じえて慶び合うことが出来、心廣法師も喜びの念(おも)、満面でありました。

次いで、昨年も管長猥下のご親教が島根県出雲の第五教区第一日目西光院、興善寺、東光寺、第二日目萬福寺、霊雲寺、第三日目第三教区(本山直轄)鳥取県南苑寺で、九月二十七日・二十九日、少々暑さを感じるものの快晴に恵まれた中で行われました。随行は総長、教学部長、部員二名で、各寺院とも多勢の檀信徒が、通路の両サイドに並ばれ、合掌でのお出迎えを頂きました。ご親教の次第は各寺院とも同じく管長猥下導師で本尊、開山及歴代住持、檀信徒各家先亡諷経と各回向、管長猥下の法話、総長及び教学部長の各挨拶の順に進められました。猥下は、各寺共清掃、整備が行き届き、相国寺派の地方寺院として面目躍如たることに、関係者一同を賞賛されました。また、東日本大震災のあと東北地方に向向され、福島県知事と会談、義援金を手渡され物故者の法要及び復興祈願をなさり、自らの危険をよそに、率先して他の方を思うという仏心(註)の発露は、堂内に参集の聴衆をして感動させるものがありました。そして、尚且つ一地方の問題で収束する事なく、他へも問題が拡散して収斂することに大きな不安をかかえる原発に対し反発の胸中を吐露されました。

また、半世紀にわたって憲法九条を守り、日本は紆余曲折の中にも平和を維持し

て、今日に至る繁栄を手中にしました。外国との交易にいたしましたが、最近とみに増加した外国に於ける日本企業の現地生産の維持を例に取りましても、一にも、二にも平和が大事であり、九条の遵守、あくまでも存続して行く事が是^せであります。皆さん、私達は今こそ真の仏教徒として「仏の温かい眼と慈悲^{みせ}により抱かれた自分を見つけ、日々喜び多い人生を闊歩して頂きたい」と思います。

(注) 仏心とは大慈悲の心であり、又知恵の心でもあり、禅宗は仏心宗、達磨宗とも申します。

ところで、ここに少々付加しておきたいことがあります。当の相国寺は、足利義満公が修行道場を意図して建立なさいました。現在の境内南西部(現普廣院・養源院)に隣接して近年まで、同志社大学のグラウンドがありました。しかし、故あって、発掘調査が昨年三月迄(七か月間)行われ、二〇一三年には今出川校地新校舎完成の運びとなりました。ここは、元相国寺創建当時から明治六年の廃寺迄存在した鹿苑院(義満公の塔所で禅宗行政の中心地として、僧録始祖春屋妙葩^(注)禅師、以后歴代住持が僧録輪住となる)の地趾の一部と伝えられて来ました。しかるに、今回の調査で多数の陶器、磁器、土師器などの遺物が出土しました。

特に、①桐紋瓦(室町時代後期)、②「鹿」の墨書のある陶器碗(室町時代中期)な

どが出土しました。①の桐紋は足利家が天皇家から、下賜されたもので、足利家と関係深い建物の屋根に葺かれ、②の「鹿」の墨書は鹿苑院を示すものと考えられ、鹿苑院の存在を裏付けるものであります。この他

鹿苑 境 と彫られた花崗岩の標
瑞春

石が立ったまま出土したり、鹿苑院の敷地の北辺を限ると考えられる溝からは十五世紀の桐紋瓦が多数出土しています。相国寺の創建期(十四世紀)～十五世紀に係る五山の大寺院の遺構が確認されたことは貴重な調査発見であります。

(以上同志社発行「相国寺旧境内の発掘調査」参考)

(注) 発掘調査の説明会には相国寺一山も特別に現地へ招かれ報告を受けた。

鹿苑院は康暦二年(一三八〇)足利義満公無相禅尼中陰追薦の為建つ。初め安聖院と号し鹿苑院創立に先だつこと三年なり。義満公之に住居し、義堂周信、古劍妙快、太清宗潤等の諸老を招いて日夕修道。慈照相公に及んで蔭涼軒を境内に構え右街僧録を置き、中正藏主始めて居す。今日その間の日記として鹿苑日録、蔭涼日記が現存しています。

(相国寺史料より)

終りになりましたが、皆様のご健康とご多幸を心より祈願致しますと共に本年も御法愛のほどよろしくお願い申し上げます。

年頭御挨拶



相国会会長 片岡匡三

有馬頼底管長猥下をはじめ、本派寺院御住職並びに相国会会員、檀信徒のみなさま、新春を迎え、ますます御健勝のことと拝察し、心よりお慶び申し上げます。

本年も相変わりませず、よろしく御教導のほどお願いいたします。

昨年もいろいろな行事が執り行なわれました。

◆五月一日、新内局が発足しました。

江上泰山眞如寺御住職が宗務総長を御退任なさいました。平成十四年より九年間、数々の大きな行事を厳修され、相国寺の今日の充実発展に盡力されました。御在任中、お勤めの後、お疲れのところを、夜間、修学旅行生に対して宿舍まで出張されて、親しく「法話」

の一時をおもちくださいましたこと、しかも何年にもわたってお続けくださったことに私は感銘いたしました。物質的な豊かさをひたすら追い求め、お金中心の価値観に汲々として生きる大人たちの社会風潮の中で、揺れるにまかせて生きている生徒たちに、この総長のお話は「生きる指針と勇氣」をお与えくださいました。御苦勞さまでした。有難く、心から感謝いたします。これからは一層、御自愛の上、本派発展のためにお力添えをお願いいたします。

さて、新内局として、山本康稔普廣院御住職が宗務総長として推挙され、御就任なさいました。鹿苑寺(金閣寺)執事長としての御実績と御圓滿なお人柄で一山の尊敬を一身に集めておられます。新しい宗風をおたてになるに違いありません。御自愛の上、御活躍、御教導の程、よろしくお願いいたします。

◆五月二十一日

「東日本大震災物故者、並びに前本山顧問弁護士福田浩氏 追悼諷経」が本山法堂で厳粛にとり行なわれました。門川大作京都市長、福田家御親族、本山総代四名が参詣いたしました。三月十一日の大地震に続く大津波に一瞬にして貴い生命を奪われた二万数千の犠牲者の御霊位に静かに黙祷を捧げ、深く哀悼の意を表した次第です。

また、この度の大地震と原発事故により、不自由で不安と苦悩の生活を強いられておられる被災者のみなさまに、哀心よりお見舞い申し上げます。みなさまの生活の再建、被災地の復興と除染されて安心して住める郷土に戻ることが一日も早く実現されますことをお

祈りいたします。私どもも「絆」を一層強めて御支援すべく覚悟を新たに取組んで参ります。

◆八月一日

「相国寺鐘樓落慶法要」が挙行されました。先ごろ、中国河南省開封市にある「大相國寺」より日中友好の記念として梵鐘が贈られてきました。この度、宣明（浴室）の南側に立派な「鐘樓」が完成、無事安置されました。相国寺の梵鐘よりもやや大きく、裾の方が外側に開き気味。表面に「友好記念鐘」「般若心経」としっかり刻まれています。管長猥下が「人類の平和」と「衆生済度」の祈りをこめてひと撞き。荘重な響きが流れる中、一同合掌礼拝。貴重な「洗心」の一時をもちました。

◆十月二十一日

「相国寺開山夢窓国師毎歳忌法要」が本山法堂で厳粛にとり行なわれました。今年は福井県と鳥根県から熱心な檀信徒のみなさまが大勢参詣されました。夢窓国師の御法恩に感謝し、静かな祈りの日として、これからも敬虔な一時を大切に修していきたいものと思っております。

今、私は、この大自然の中で「生かされて生きているのだ。」という実感を、これまで以上に強くもっています。「感謝」と「祈り」を大切にした生活でありたいと思っています。よろしく御叱正の程お願い申し上げます。

平成二十三年度 御親教日単

有馬頼底管長、山木康稔宗務総長、矢野謙堂教学部長、江上正道部員（記録）、荒木泰量部員（侍衣・記録）

9月27日

午前6時55分 本山出発

8時55分 伊丹空港発

9時55分 出雲空港着

10時 先駆、西光院へ出発、引続き管長、総長出発

10時35分 西光院到着、門前多数の出迎え、書院にて到着茶礼

11時 殿聲五聲支度、全連声出頭、有馬管

長、山木宗務総長、矢野教学部長、

西光院金森則融住職、保寿寺藤岡牧

雄宗務支所長が出頭

同教区尊宿が司会進行、若手住職等

が維那・玉鱗を務める

一、般若心経、消災呪、本尊回向

二、大悲呪、開山回向
三、甘露門、檀信徒先亡回向
（※以下各寺同式次第）
西光院へ御親教記念品贈呈

（管長猥下墨蹟書き下ろし）

管長猥下法話

宗務総長挨拶

教学部長挨拶

檀信徒謝辞 総代 黒田儀重氏

記念撮影

御親教終了、同寺「好日庵」にて齋座

先駆、西光院出発、全10分管長、総

長出発

午後12時 1時15分 先駆興善寺到着、全25分管長、総長

到着、出迎えを受ける

書院にて到着茶礼

1時45分 御親教開教、管長、総長、教学部長、興善寺周藤隆道住職、藤岡宗務支所長が出頭

諷経後興善寺へ御親教記念品贈呈
その後管長法話、総長、教学部長挨拶
檀信徒謝辞 代表 原治雄氏
記念撮影

2時45分 御親教終了

2時50分 先駆興善寺出発、引続き管長、総長
出発

2時55分 先駆東光寺到着、3時管長、総長到着、多数の出迎えを受ける
到着茶礼

3時20分 御親教開教、管長、総長、教学部長、東光寺勝部大義住職、藤岡宗務支所長出頭

諷経後東光寺へ御親教記念品贈呈
管長法話、総長、教学部長挨拶
檀信徒謝辞 総代 勝部哲郎氏
記念撮影

4時35分 御親教終了、見送りを受け東光寺を
出発

5時 投宿先「ツインリープスホテル出雲」到着
6時30分 薬石

9月28日

午前8時10分 先駆、ホテル出発、萬福寺へ向かう、
全20分管長、総長出発

8時25分 先駆萬福寺に到着、全35分管長、総長
萬福寺到着、多くの出迎えを受ける
書院にて到着茶礼

8時50分 御親教開教、管長、総長、教学部長、
福場宗康住職、藤岡宗務支所長が出
頭

諷経後萬福寺へ御親教記念品贈呈
その後管長法話、総長、教学部長挨拶
檀信徒謝辞 代表 鶴原敬之氏
記念撮影

10時10分 御親教終了

10時15分 先駆萬福寺出発、全20分管長、総長
出発

10時20分 先駆靈雲寺到着、全30分管長、総長

9月29日

午前8時30分 先駆、ホテル出発、南苑寺へ向け出
発、9時管長、総長出発

8時35分 先駆南苑寺に到着、9時5分管長、
総長到着、お出迎えを受ける
書院にて到着茶礼

9時25分 御親教開教、管長、総長、教学部長、
南苑寺小野塚越山住職等が出頭
同教区住職等が司会進行、維那・玉
鱗を務める

諷経後南苑寺へ御親教記念品贈呈
信徒謝辞 代表 岸田真孝氏
記念撮影

10時30分 御親教終了、南苑寺出発

11時30分 「依山楼石崎」出発
倉吉駅出発

午後12時22分 京都駅着
4時10分 無事本山到着
4時45分

午後12時20分

御親教終了、靈雲寺出発
「笠屋」にて斎座、靈雲寺三代政道住
職、藤岡支所長同席

1時50分 出雲市駅発、五教区各和尚方の見送
りを受け乗車

3時15分 倉吉駅着、三朝温泉へ
4時 投宿先「依山楼石崎」到着、三教区和
尚方の出迎えを受ける

7時 薬石、ホテルにて第三教区各寺院住
職同席のもと懇親会

御親教寺院紹介

西光院

〒六九九一〇五〇四 島根県出雲市斐川町三絡一〇六三
電話 〇八五三一七二一六四五

山号 紫金山

開創 天正十六年(一五八八)

開山 天珪周悦和尚

本尊 阿弥陀如来(戦国時代)

脇侍その他 毘沙門天(戦国時代)

伽藍構成 方丈 観音堂 書院 庫裡 鐘楼

檀信徒研修室

住職 金森則融

年間行事 毘沙門天福祭り(正月)

観音様夏祭り(八月)

施餓鬼法要

布教活動 出雲国七福神霊場に参拝の皆様

法話

●由来・沿革

西光院は水の都・松江市の隣、風光明媚な宍道湖の西、出雲空港の近くに位置する。

天正十六年(一五八八)、時の戦国武将、毛利元就の重臣天野隆重の子雅楽と天野一族によつて父隆重の菩提を弔うため、建立されたのが当院である。

昭和五十六年(一九八一)、鐘楼落慶に金閣寺村上慈海長老を導師として拝請。書院を新築し、慈海長老より「好日庵」と命名賜る。お茶席として広く利用されている。

興善寺

〒六九九一〇六四三 島根県出雲市斐川町原鹿一八四〇
電話 〇八五三一七二一八五八六

山号 歓喜山

開創 慶長十六年(一六一一)

開山 天珪周悦和尚

本尊 阿弥陀如来(嘉吉三年ツクナリ作)

脇侍その他 達磨大師(室町時代)

伽藍構成 本堂 庫裡 観音堂 大師堂

妙見菩薩堂 鹿島神社

住職 周藤隆道(第九世)

年間行事 施餓鬼 夏祭 彼岸布教

布教活動 伝道(山門入口揭示 室内揭示 夏祭法話)

●由来・沿革

興善寺は十七世紀初め、江戸時代の慶長十六年(一六一一)に創立。それから慶安四年(一六五二)まで四十年間、三代にわたり庵寺であった。慶長十六年(一六一一)より平成十八年(二〇〇六)現在まで三百九十五年を経過し、現、隆道和尚が九代目住職である。

当山の本尊は、阿弥陀如来の木像で室町時代の作。嘉吉三年(一四四三)六月二十日、佛師ツクナリ作。慶安四年(一六五二)に再興。中興實参和尚は大原郡大東町一乗寺の徒で、出雲市武志町萬福寺において法嗣。本尊に向かつて右側に達磨大師と歴代を祀る。安政三年(一八五六)十一月、本堂大火災に罹り、本尊は安泰であったが、一切の記録を失う。

明治二十四年(一八九二)本堂を再建する。その間三十五年の間、仮寺であった。昭和農地改革に依り三町ばかりの農地が二反余りになり、檀家数も移転等で現在十二戸となる。観音堂は安永五年(一七七六)、出東地区より田と共に奉納される。地震により、昭和四十五年(一九七〇)頃再建。御身躰は(木佛)聖観世音菩薩。外には鎮守堂に開運妙見菩薩と地震守護の神、鹿島大明神があり、弘法大師堂、(石佛)延命地藏尊、六地藏堂がある。

東光寺

〒六九九一〇六四三 島根県出雲市斐川町原鹿三九一
電話 〇八五三一七二一二二二五

山号 朝日山

坐禅会
御和讃の練習

開創 寛永七年(一六三〇)

開山 富田寺天珪周悦和尚

開基 関東相模城主忝相模守

本尊 薬師如来立像

(本堂安置・平成元年修復)

脇侍・その他 日光・月光両脇侍

(本堂安置・平成八年修復)

伽藍構成 本堂 庫裡 元観音堂(清泰寺)

元山門(楼門) 元物置(米倉)

住職 勝部大義(第十三世)

年間行事 春大般若会

夏山門施餓鬼会

秋出雲相国会本山団体参拝参加

夏休み子供坐禅会

大般若

写経

●由来・沿革
昭和四十年(一九六五)一月九日、先住の時、本堂、庫裡、隠庵、離れ座敷、内蔵などが火難のため焼失する。先住は元の寺である霊雲寺に帰山する。火災後ただちに檀家と共に本堂を再建する。

翌四十一年(一九六六)四月十日に金閣寺村上慈海長老を迎え落慶法要を厳修。四十五年(一九七〇)には庫裡の再建、観音堂、屋根葺替大修理、引き続き山門の屋根葺替工事も順次進み現在にいたる。

萬福寺

〒六九三一〇〇一四 島根県出雲市武志町九〇四の一
電話 〇八五三一三二二二二五二六九

山号 大黒山

開創 慶安二年(一六四九)四月十五日

開山 天珪周悦和尚

開基 宍道政慶

本尊 延命地藏菩薩

脇侍・その他 観世音菩薩

伽藍構成 本堂 庫裡 山門

住職 福場宗康(第十一世)

年間行事 彼岸法要(三月)

山門施餓鬼会(七月)

裡七間半・梁五間を全焼する。昭和四十八年(一九七三)十一月二十五日、本派大津樞堂管長・大象窟老大師を特請し、妙心寺派萬寿寺(松江市奥谷町)より延命地藏菩薩を本尊として来迎。荘厳裡に入仏供養を厳修する。同五十八年(一九八三)十月三十一日、庫裡新築。同六十三年(一九八八)三月二十七日、老朽化した山門の改修が成り、本派梶谷宗忍管長・止々庵老大師を特請し、落慶法要を厳修する。平成十七年(二〇〇五)十一月二十三日、新庫裡建立落慶法要を厳修し現在に至る。

●由来・沿革

創建は慶安二年(一六四九)鳶ヶ巣城主宍道政慶の開基により、本尊は薬師如来。天珪周悦和尚を開山として伝えられている。

昭和四十五年(一九七〇)十月二十六日未明、不慮の災火により、本堂桁五間半・梁五間、庫

霊雲寺

〒六九三一〇〇七三 島根県出雲市西林木町四一三
電話 〇八五三一三三三〇八二

山号 林運山

開創 伝・天正十三年(一五八五)頃

開山 天珪周悦和尚(中興開山)

開基 宍道政慶

本尊 聖観音菩薩

(伝・安土桃山時代、恵心僧都作)

脇侍・その他 阿弥陀如来 五百羅漢等

伽藍構成 本堂 庫裡 客殿 文殊堂

鎮守堂 土蔵等

住職 三代政道(再興後・第八世)

年間行事 大般若 施餓鬼 達磨忌

●由来・沿革

霊雲寺は山号を林運山といい、鳶が巣城主・宍道政慶の菩提寺である。創立は応永二年(一三九五)。当初は安住(安浄)寺と号し、弁慶で有名な天台宗鱒淵寺末で山の中にあつた。

開山は阿闍梨法印円観和尚。時代は下つて、

出雲の一带では尼子と毛利が対立したが天正十年(一五八二)、毛利元就、輝元の後ろ盾によつて宍道政慶が鳶が巣城の城主になつた。政慶は亡き父隆慶の供養のため、安住寺を自分の屋敷のあつた場所に移し、霊雲寺と改号、菩提寺にしたと寺伝にある。政慶の位牌には「霊雲寺殿實谿篤公大居士神儀」とあり、霊雲寺の開基とされている。

本尊の聖観音菩薩坐像(木彫)は、元就が帰依した恵心僧都作と伝えられる。宍道隆慶、政慶親子は信心厚い武将で、永禄十一年(一五六八)京都相国寺光源院に父子の名で寺庵(瑞応寺、西成寺、岩蔵寺、来迎寺、玖潭)を寄進している(『相国寺光源院文書』)。

その後、天正十五年(一五八七)宍道氏は長門へ、慶長五年(一六〇〇)には毛利氏が萩へ

移封され、鳶が巣城が廃城になるに及び、霊雲寺は荒廢の道を辿つた。霊雲寺を立て直さんと、慶安三年(一六五〇)京都の臨濟宗興聖寺より天珪和尚を拜請、中興の開山とした。その時、京より茶人であり作庭家の金森宗和を招いて造庭、城主の菩提寺に相応しい伽藍修理等が行われたようだ。しかし頼れる人も少なかつたのであろう。宝暦十四年(一七六四)の記録には「本堂自力崩壊、仮屋。当時平僧寺」とある。

次の再興は享和元年(一八〇一)頃。桁行十間半、奥行五間の本堂兼庫裡が再建され、現在の伽藍の原型となる。この時の住職桂山和尚が再興開山一世と呼ばれている。歴代住職の中では明治初年、本山興聖寺の管長に招聘された四世伊菴和尚(興聖二十一世未徹老師)が有名で、しばしば行われた授戒の記録が現在も本堂に残っている。

なお相国寺派になつたのは明治四十五年(一九一二)で、興聖寺派は本山興聖寺とともに相

国寺派に合併吸収された。戦後は農地解放で財産を失い、厳しい状況にあつたが、戦時中供出した梵鐘を新調し、相国寺派管長山崎大耕、大津樞堂老大師を戒師として授戒を行い、さらに平成四年(一九九二)には百年ぶりの本堂屋根替え等が実現し、鳶が巣城主菩提寺に相応しい伽藍となつた。

境内前庭西側に弘法大師堂、阿弥陀堂、地藏堂がある。弘法大師堂は旧楯縫八十八カ所巡礼の四十九番札所。本尊が聖観音であるため、楯縫三十三観音霊場の十二番札所にもなっている。本堂西側の庭が金森宗和といわれるが、その裏の一段高いところに文殊堂、金比羅さんを祀る鎮守堂、鳶が巣城主宍道政慶の宝篋印塔がある。文殊堂には文殊菩薩と五百羅漢(木彫)が安置されている。市の銘木に選定された白木蓮は、推定樹齢百年、樹高二十メートル。市文化財指定の吉山明兆筆三禪師画像(百丈禪師、仏鑑禪師、臨濟禪師の頂相)は奈良国立博物館に寄託されている。

南苑寺

〒六八二一〇一二三 鳥取県東伯郡三朝町三朝二〇五の三
電話 〇八五八―四三―〇二二九

山号 萬年山

開創 昭和二年(一九二七)十一月

開山 橋本峯山禪師

開基 橋本獨山禪師

本尊 薬師瑠璃光如来(橋本獨山禪師作)

伽藍構成 山門 庫裡 本堂 隠寮 土蔵

住職 小野塚越山(第三世)

年間行事 お盆棚経

春秋拝観

夏休み坐禅会

●由来・沿革

鳥取県三朝町三朝の温泉街を見下す山の腹に建立されているのが、南苑寺である。当寺は京都にある相国寺を本山とし、薬師瑠璃光如来を本尊としている。

開山は京都の元臨済宗天龍寺派の管長橋本

峯山禪師で、開創は元臨済宗相国寺派管長の

橋本獨山禪師である。獨山禪師の生国は新潟

県南魚沼市大木で、年少にして出藍の誉高く、

特に絵と書を良くした。若くして京都に出て

富岡百鍊鉄斎に師事し、書画と儒学を学んだ。

やがて発心して仏門に入る。明治四十三年(一

九一〇)臨済宗相国寺派の管長となった。五十

八歳頃から右手が神経痛となり、各地で湯治

したが思わしくなく、たまたま鳥取県の信者

が三朝温泉を紹介したので、ひと夏ここで湯

治した。その結果すこぶるよく神経痛も完治

したため、これに感謝して南苑寺創建を発願

した。

本尊を薬師瑠璃光如来とし、開山を峯山禪

師、開基を両親としてそれぞれの大恩に感謝

するため、全く他の力を仰がず得意の書画の

謝礼により建立した。

昭和二年(一九二七)十一月盛大に入仏式を

挙行、その折の慶讃香語に曰く

「一棟二搬功始成 低楼小閣白雲擎

医王若欲容凡聖 更待当来作化域」

(二は棟き二は搬び功始めて成る。低楼小閣白

雲擎ぐ、医王若し凡聖を容れんと欲せば、更

に当来を待つて化域と作さん)

り。試みに水南より全景を看れば、宛然一幅
画図の山)と詠んでいる。昭和十三年(一九三
八)八月老師は病篤く、末期の一句「七十年來
只一喝」を残し、多くの信者に見守られて遷化
した。

また、南苑寺偶成に曰く

「楼台隱見白雲間 絶壑幽林秋爛斑

試自水南看全景 宛然一幅画凶山」

(楼台に隱見す白雲の間、絶壑幽林秋爛斑な

平成二十三年度 在錫者名簿(雪安居)

京都南	光雲寺徒	中川秀峰	富山国	興国寺徒	桃井宗惇
京都相	光源院徒	荒木文元	富山国	国泰寺徒	藤木宗徹
石川国	吉祥寺徒	山田慈康			

ご親教を受けて

西光院総代 黒田儀重

さわやかな風が吹き数片の鱗雲が浮かぶ初秋、宍道湖のほとりの出雲空港に管長猥下がお着きになると、昨年が続いて出雲路へのご親教の始まりです。空港から最初のご訪問地西光院まで、あたりは刈り取りの終わったばかりの田が続いています。ところどころに淡いピンクの秋桜が揺れ時折鳥のさえずりが聞こえる、そんな田舎の風景が広がっています。お寺の山門にお着きになると迎える人の笑顔、笑顔、管長猥下を一目見ようと多くの人が集まっています。

檀家数の少ない田舎のお寺ですが、ご親教をあたたく迎え入れようと、本堂の清掃、庭木の手入れ、周辺の草刈り、飾り付け、道具類の準備に至るまでたくさんの人たちが関わりました。早起きしてお菓子を作った職人さん、特産の出雲そばを大切に育て、手打ちで

もてなした人、事前の準備や当日の運営に心を砕いた人、ありとあらゆる人が物心両面にわたって支えてくれました。特に当日、裏方をしっかりと守った女性陣は頼もしい限りでした。檀信徒や支援者がお寺と一体となり献身的にお寺をもち立てる姿はまさに、管長のお言葉の「車の両輪(住職と檀信徒が一体になりお寺をもち立てること)」、別な意味でのご親教の意義深い出来事の一つでありました。

いよいよご法話の始まりです。皆が緊張して、第一声を待つ。開口一番お寺の山門付近の水田に放牧されている牛の鳴き声のお話、本堂にどつと笑い声が響きました。この瞬間から皆が少しリラックスして、自然体でお話を聞くことが出来ました。

お話が進むにつれ、にこにこ笑顔が絶やさ

ないまん丸いお顔に包まれて、心が自然と解きほぐされていきました。濃厚で慈愛に満ち親しさを覚えるそんな語り口で本尊の阿弥陀様のこと、脱原発のこと、核兵器廃絶のこと、世界平和のことへとリズム良く話が展開します。そして、仏教の教え、真髓についてのお話に移り、禅宗の教えは「計らいをなくせ、わだかまりをもつな…つまらないことを捨てれば心がきれいになる」「自分の論理だけでものをいうから争いが起きる」さらには「日本だけが平和では困る、世界が平和でなければならぬ」と続きました。そして最後に、「慈悲道、慈しみの心、お互

いが人格を認めあって慈しみあうことが仏教の精神である」「これから仏教でなければ地球は救えない」と締めくくられました。本当にありがたいお話、ありがたい出来事、夢のような時間でありました。

心に残るお話もすばらしかったのですが、何にもまして、私たちの管長様に親しく接する機会が得られ、お人柄の一端に触れることが出来ましたことが檀信徒にとって最も有意義なこと、心に残るひとときではなかったかと思えます。

本当にありがとうございました。

興善寺御親教に拝して

興善寺総代 原 節雄

今年には日本中を震い上がらせた大惨事が三月十一日に東日本を覆い地震、そして誰もが

予想しなかったであろう津波が一瞬にして尊い命、家屋、乗り物、等々を飲み込んでしま

ました。信じがたい光景になすすべがなく息が詰まる思いでした。

瓦礫となした傷跡、未だ行方の判らない方達、言葉では言い尽くせない残酷で気の毒な出来事です。一日も早く元の生活に戻れますように念じております。

追いつきを掛けるように九月の紀伊半島を襲った台風十二号、今、日本の国が大きな難題に直面しているのではないでしょうか。復興のために一人一人が慈悲の心を持って助けあって行かねばならないと思います。

このような時期、有馬管長猥下御一行様をお迎えさせて頂く事に心よりお礼申し上げます。

秋晴れの九月二十七日午後一時三十分、檀信徒一同が整列して心持緊張しながら合掌し御到着をお待ちして居ました。

有馬管長猥下御一同様が到着され大傘の内より慈しみの笑顔で親しく会釈され檀信徒一同心が和む思いでございました。

お迎えするまではお寺の準備仕度等々で、

無事にお迎え出来るだろうかと不安が心をよぎりました。本当に安堵致しました。

御到着後、茶礼の席に同座させて頂き感慨無量で目が熱くなりました。

本堂に鐘が鳴り響く中、管長猥下大導師の下法要が始まり摩訶般若波羅蜜多心経をご唱和させて頂きました。本尊様御回向、檀信徒各家御先祖回向が厳粛に執り行われました。御先祖様のお陰で今こうして私たちが生かされて居ります。改めて精進して先祖供養をさせて頂いただこうと思えます。又お帰りの折、当興善寺住職が高齢の上体調が思わしくないことに気遣っていただき暖かいお言葉を頂き胸が熱くなりました。

檀家の方達が当住職さんを

末永く支えてあげてください。

檀徒一同お言葉を胸に刻み慈悲の心の深さを感じさせて頂きました。

小規模なお寺ですが檀徒一人人を思いやる心と勇気を頂き厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、有馬管長猥下を始め、本山和尚様、遠路有難うございました。

またお迎えするにあたり色々ご指導ご鞭

撻いただきました。御住職様、本当に有難う御座いました。興善寺檀信徒を代表して厚くお礼申し上げます。

第五教区
御親教
感想文

東光寺御親教を拝して

東光寺総代 勝部宏文

爽やかな秋晴れのもと九月二十七日午後三時、多数の東光寺檀信徒が門迎する中を大本山相国寺の有馬頼底管長猥下御一同様がお着きになりました。管長猥下は合掌してお迎えする私たちにこやかな笑顔で親しく会釈をしながら本堂へお入りになりました。

しばらく休憩、茶礼の後、当山御本尊回向、開山歴代祖師回向、檀信徒各家先祖回向が厳粛に執り行われ感激に浸りながら唱和させて頂きました。法要の後記念の品を賜り寺宝として大切に参ります、誠に有難うござい

ました。

続いて、管長猥下の御法話を拝聴いたしました。開口一番当山の昭和四十年の火災により本堂焼失の件にふれられ、今日の東光寺があるのも檀信徒一丸となって復興に努めた賜との御言葉を頂き勿体無く恐縮したところでありました。

また、東日本大震災に深く心を痛め一日も早い被災地復興を念じ犠牲になられた方々のご冥福を祈り被災に遭われた方々に御佛の加護あらんことを祈願しているとお話されまし

た、禅宗に「本来無一物」という言葉があるがこれは生まれた時何も持たないで誕生するが成長する程に「我」「欲」が出てくるが「慈悲の心」を持つて心穏やかに暮らす事が大切であるとお説きになられ、心にしみる思いで拝聴いたしました。管長猥下は世界平和と文化交流にも力を入れられ世界各国を歴訪されているお話もされ、多忙を極める最中に当山に御親教賜りましたことに感謝申し上げます。

山木宗務総長様、矢野教学部長様にも御挨拶を頂き、山木総長より大本山相国寺の法堂も四回も火災に遭い復興されたお話や御親教の

意義、矢野部長より『円明』の編集、研修、布教活動について丁寧なお話をいただきました。

この度の御親教で管長猥下はじめ宗務総長様、教学部長様と間近に接し親しくお言葉を頂き、また檀信徒一同と記念写真を撮り生涯の思い出になると共に本山を一層身近に感じる思いがいたしました。

最後になりましたが、大本山相国寺の御発展と有馬管長猥下、本山の和尚様方の御健勝をお祈りし、今回の御親教にお世話になった教区の和尚様方に厚くお礼申し上げます。

合掌

第五区
御親教
感想文

萬福寺御親教を拝して

萬福寺檀信徒代表 鶴原敬之

九月二十八日は、秋らしく気持ちのよい朝でした。萬福寺へ向かうと、たくさんの檀信徒

が山門付近に集まって、待ちに待った御親教の一日をかみしめている様子でした。まだご到

着には早い時刻でしたが、緊張しているのは、私だけではないと感じました。

そして、合掌してお迎えした時、管長猥下の優しい笑顔とお言葉に触れ、私たちの心は洗われるようでした。最近テレビによく出ている芦田愛菜ちゃんの写真もとても素敵で、愛らしく、見ている私たちも自然とにこにこ幸せな気分になさしてくれます。笑顔の心地よさを感じ、私たちも、いつも笑顔で前向きに生活していくとよいと思いました。

本堂での御親教のなかで、私には、二つの言葉が特に心に響きました。一つは、「一に掃除、二に信心」というお言葉です。何故かというところ、我が家は、掃除が出来ない家だからです。私の勤め先でも、「お客様の少ない時には、掃除をしなさい。そうすると自然によい結果が得られます。掃除は、自分磨きの原点なのだから」と言われてきました。会社の掃除ができて、自分の家の掃除ができません。上辺だけの掃除で、自分自身からの気持ちでやってい

ないからでしょうか。家族と一緒に見えるところだけでなく、見えないところこそ一生懸命掃除に努めたいと思います。もう一つは、「お地藏様をお願いするだけでは、助けてもらえません。こちらが、しかるべき行動を起こせば、よくやっているなど、助けてもらえます。」という言葉です。私は、子供の頃より納得のいかないことがありました。今は亡くなりましたが、祖母は信心深く、困ったときには、仏壇に手を合わせて、お願い事をしていました。それを見て、ご先祖様に、いくら手を合わせて頼んでも助けてもらえらると思いませんでした。今、管長猥下のお言葉で、行動を起こすことが大切なのだとわかり、やっと納得して仏壇に手を合わせることができました。しかし、「しかるべき」とは、何でしょうか。私はこれからの人生「しかるべき」というお言葉を考え続けていきたいと思えます。

他にもたくさんのお言葉をいただきました。それぞれの檀信徒の家庭で、この御親教の話

が伝わり、大本山相国寺が身近に感じられたことと思います。

最後に、管長猥下ご一行様のご健勝を、心よりお祈り申し上げます。また、お世話頂い

た教区の各寺院様、お手伝い頂きました檀信徒の皆様ありがとうございます。感謝申し上げます。

第五教区
御親教
感想文

霊雲寺御親教を拝して

霊雲寺総代 富田謙次

出雲地区の御親教も二年目に入り第五教区最後の寺として九月二十八日水曜日、管長猥下らがおいでになると住職から知らされ、身の引き締まる思いが致しました。

早速役員会を開き、本堂や客殿などの主なところの畳の表替え、襖、障子、床の張り替え等を企画し、境内にある多数の樹木については専門業者に依頼。周辺は直前の九月二十三日休日の日に、檀家総動員、地区ごとの役割分担の奉仕によって掃除、川砂敷き、草取りなど

をやりました。住職一家のお考え通り草花などまで生かした整備を行いました。後で自然が素晴らしいとお褒め頂き、大変嬉しく思いました。

御親教の当日午前十時三十分、有馬頼底管長猥下が、山本宗務総長、矢野教学部長、教学部員二名と共に門迎の中を次々とご到着。こやかな笑顔で会釈される管長様を檀信徒一同合掌でお迎えいたしました。

客殿での茶礼の後鐘の音が響き、総長、部

長様が所定の座に着かれた後、管長猥下が御入堂。ご本尊回向、開山先住回向、檀信徒各家先祖回向が厳粛に執り行われました。当日は平日であったにもかかわらず、檀家数七十数軒に対して出席者は七十八名、全員経本を持参し、見事なお経の大合唱でした。

その後当山住職に記念品授与。更に管長猥下のご法話が続きました。「霊雲寺は高台にあり眺望と環境が実に素晴らしい」というお褒めの言葉に続き「寺院と檀信徒の間は車の両輪

の如くであることが大切だ」「慈悲の心、清新な心、仏に向かう信心の心を大事にしよう」というお話が頭に残っています。特に本堂の左右の柱に掛けられている「菩薩清涼月遊於畢竟空」「衆生心水浄菩提影現中」の言葉を通しての御法話に、皆が強い感銘を受けました。

最後になりましたが、宗務総長様、教学部長様のお話にも感謝申し上げます。子孫に語るいい思い出が出来たことに厚くお礼申し上げます。

第三教区
御親教
感想文

南苑寺御親教を拝して

南苑寺檀信徒代表 岸田真孝

鳥取県中部の風光明媚なこの三朝温泉に位置する南苑寺において、九月二十九日御親教が執り行なわれました。当日は秋晴れに恵まれ、有馬管長猥下ご一行を檀信徒一同心待ち

にお迎え致しました。そんな中、管長猥下は私達に笑顔で会釈されながら、本堂にと向かわれました。そのお人柄の温かさに触れ、私達の緊張が次第にほぐれていくのを感じました。

犬との生活

演劇塾 長田学舎
西上 友実子

その後、茶礼から始まり、管長猊下の下で、法要が執り行われ、本尊回向、檀信徒各先祖の回向を頂き、ただただ有難いばかりでございました。管長猊下のご法話は、この南苑寺を建立された独山管長の生い立ち、そして私達の知らなかったお人柄について、興味深く拝聴させて頂く事が出来ました。そして、この三月に起きた東北大震災の地に実際に行かれた現状をお話しされました。そのすさまじさを目の当たりにされ、より強く核廃絶を推し進めることが人類の平和へとつながる事をとっても強調されました。その先頭に立っておられる管長猊下に深く感銘をうけました。

御法話の後、山木宗務総長様より南苑寺の地域としての存在感、そして今回の御親教の大切な機会をいただいたことをお話しいただきました。最後に南苑寺の今後の発展を念じておられました。つづいて、矢野教学部長様より相国寺と檀信徒の窓口となる重要な職務の内容を話され、また機関誌『円明』の編集等の

お話を聞かせて頂きとても有難く思いました。そして、この三朝にとっても好印象をもって頂いた御様子を話され、感激致しました。最後に、私個人の大本山相国寺とのご縁を謝辞として述べさせて頂き、忘れられない思い出となりました。

この度、遠路遙々管長猊下御一行にお越し頂き、直接ご教導賜りました事に心より感謝申し上げますと共に、大本山相国寺の御発展を心よりお祈り申し上げます。



私は無類の動物好きです。その中でも、犬が何よりも好きで、町で見かけると無性に触りたくなります。飼い主がやさしそうな方だと、「触ってもいいですか」とことわって、触らせていただく事がよくあります。いい大人が何のためらいもなく、小型犬なら抱きしめてしまい、大型犬なら、私から抱きついてしまうのです。

私がなぜ、こんなにも動物、特に犬が好きなのかは子供の頃にあります。私は、京都府北部にある、京丹後市の小さな町に生まれ、高校を卒業するまで暮らしていました。娯楽は何もない



が舞い、沢山の野鳥の声が聞かれます。六月には家の側に流れる小川に源氏螢が飛びかい、秋にはオニヤンマが現れ、アゲハチョウもそれはそれは美しい姿を見せてくれます。鳥や虫達だけではなく、草木の花も色あざやかに、美しく咲き競います。

そんな自然の宝庫のような所で生まれた私は、動物と触れる機会が多くありました。私が生まれて最初に出会って触れたのが、近所に飼われていた「ジョン」と云う名前の犬でした。ジョンは、スピッツのように真っ白で、とても大きな目をした中型の雑種犬でした。ジョンは時々、放されている時があり、ちよくちよく家に遊びに来てくれました。まだ、オムツをして立っている私の横に、ジョンが座って一緒に写ってい

所ですが、丹後ちりめんが有名で、緑の山に囲まれ、広く日本海をのぞむ、自然豊かな美しい町です。空にはとんび



る写真が、今も数枚残っています。犬だけでなく、ツバメは毎年巣作りにやって来たり、紅スズメやセキセイインコ、猫にうさぎまで飼っていた事もあります。うさぎは、姉が、学校で飼育されていた中の一羽が仲間にいじめられているのを、預かって来ました。姉も大の動物好きで、私達姉妹は、小学校で有名になっていました。ですから、捨て犬、捨て猫を発見すると、わざわざ知らせに来てくれるのです。姉と私は急いで見に行き、時には連れて帰ってくる事もありました。連れて帰ってくるだけならまだしも、数日間、両親に内緒にして家で隠して飼っていた事も何回もありました。

ある時、イモリを両手に包みこんで連れて帰った事もあります。さすがにその時の母は、腰をぬかさんばかりに驚き、かなり叱られたことをおぼえています。けれど、どういうわけか、犬、猫については、叱られた記憶がありません。一緒にもらってくれる人を探したり、元いた場

所に一緒に戻しに行ったりしてくれていました。それ以外にも、私は、近所の養豚場へ見に出かけて行ったり、家で採れた野菜を勝手に持ち出し、近所の牛小屋へエサをあげに行ったりと、毎日のように動物と触れ合っていました。そんな沢山の動物達との触れ合いの中で、なぜ犬が一番良いのか…それはやはり、あの大きな愛らしい目と、いつも笑っているかのように見える口元、そして、他の動物にはみられない、一度飼われ始めると、とことんまで飼い主に忠実に忠誠を誓ういじらしさでしょうか…。

犬の祖先は直接的には、タイリクオオカミ説が有力だそうですが、犬もオオカミも同じ祖先から生まれた説もあり、今のところ、まだはつきりとはしていないそうです。両者は、外観、骨や歯の形数、妊娠周期、行動様式など、沢山の共通点を持っているとされているそうです。また、犬には様々な本能があり、群れで生活しようとする、群棲本能。相手が弱ければボスになろうとする、権勢本能。強い相手には喜んで従う、服従本能。自分のものを守ろうとする、監守本能。群れの安全性を確保する、防衛本能。外敵を察知し、ほえたてる、警戒本能。縄張りや群

れを守るために戦う、闘争本能。家に帰る為の方向感覚鋭い、帰宅本能の八つの主な社会的本能があると云われています。また、誰もが知っている通り、嗅覚は人間の百万倍の能力があり、聴覚は、八万ヘルツまで聞こえると云うデーターもあるとのこと。

人間が犬を飼う習慣は、一万年以上前から始まったとされ、古くから人間は、犬の本能や能力を見極め、犬の習性を知り、長い間、犬と暮らして来たと言われています。犬ほど長い歴史の中で、人間と密接に暮らして来た動物はないとも云われています。現在、様々な社会的活動をしている犬は沢山います。盲導犬、聴導犬、介助犬、警察犬、麻薬探知犬、犬ソリ犬、猟犬、災害救助犬、海難救助犬、牧羊犬、闘犬、セラピー犬、これ以上に、様々な犬達が、私達の近くで活躍をしています。社会的活動だけでなく、犬は、人間には出来ない癒しを運んで来てくれます。私が仕事をしている老人ホームでも、毎月一度、セラピー犬がやって来てくれます。そのセラピー犬に触れているお年寄りは、「こんなにやわらかいのねえ」「かわいらしい」「あたたかいわ」と、普段見られない表情を見せて下さいます。私達介護福祉士が、どんなに頑張っても出来ない幸

せや、喜びを、セラピー犬は一匹で、二十人以上のお年寄りに感じさせてくれるのです。

私が子供の頃に飼っていた犬も、私が悲しい顔をしていると、そっと寄り添って来たり、私がうれしそうにしている

と、一緒にうれしそうな顔をしてくれました。

今思うに、私が犬の事を良く知って飼っていると言ふより、いつのまにか、犬の方が私の事を良く理解し、いつも側にいてくれる感じでした。

そんな犬との生活も、私は一年

しか過ごす事が出来ませんでした。元々ア

レルギー体質である私は、突然、喘息発作を起

こし、お医者様から、犬との生活は止めるように云

われたのです。犬の毛の長さと、私が犬を触り過ぎたことが

原因でした。両親に長い時間をかけて説得され、泣く泣く私は手

離す事に納得し、犬は、知り合いの方にもらわれて行きました。あの時



の犬との別れのつらさは、今も私の心に残っています。そして、あの時の犬の悲しそうな目は、今でも鮮明に残っています。その後、私は、犬はもろんの事、動物を飼った事はありません。喘息も治まり、よほどの事がないと、発作もありません。

世の中には、沢山の家庭で犬が飼われており、いつもうらやましくみつけているのですが、時々、あまりかわいがられていないような犬を見かけます。そんな犬は、毛並みが悪く見えます。そして、とても淋しそうな、悲しそうな目をしています。語りかけると、何かを訴えるような目でみつめるので、胸が締めつけられそうになります。また、犬の本来の能力、本能、習性をあまり知らずに、夏の炎天下の中で、散歩をさせ、犬のつらそうな姿も時々見かけます。生きているもの、皆同じ命です。犬にも心があります。けれど、言葉が話せません。それでも人が思っている以上に犬は、飼い主を理解し、大切に思ってくれていると思います。どうぞ、犬を飼う時は、犬の能力や習性を理解した上で、最後まで責任をもって面倒を見るといふ覚悟で、大切に飼ってほしいと、切に念っております。路頭に迷う可哀想な犬がいないように――。

本山だより

○平和茶会

六月二十三日、慈照寺において平和茶会が開催された。この茶会は、難民支援を続ける鶴見国際交流センター(横浜市)と国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) が、難民の医療充実や東日本大震災被災地の復興支援に役立てようと、実行委員会を組織して企画したもので、参加料の一部が寄付された。当日は管長猥下が濃茶席の席主をつとめられ、六百人もの参加者があり、大規模なものとなった。

○臨済宗連合各派布教団理事会

六月二十七日、天龍寺において臨済宗連合各派布教団理事会が開催され、山本宗務総長、矢野教学部長が出席した。



慈照寺大書院

○管長猥下福島県庁訪問・いわき市沿岸部視察
 七月二十五日、二十六日の両日、管長猥下が京都仏教会の宮城泰年常務理事ら一行と共に福島県庁訪問並びにいわき市沿岸部視察を行った(円明第九十六号参照)。福島県庁では、東日本大震災復興支援の義援金を佐藤雄平福島県知事に手渡した。また、いわき市では沿岸部の津波被害の状況を視察し、同市真言宗智山派勝行院にて厳修された東日本大震災殉難者追悼法要に参列した。



佐藤知事に義援金を渡す管長猥下

○鐘楼「天響楼」落慶法要
 八月一日、祝聖並びに山門施餓鬼法要の後に、管長猥下以下一山尊宿ならびに相国寺、鹿苑寺、慈照寺の檀家総代列席のもと鐘楼「天響楼」の落慶法要が行われた。完成した鐘楼は、中国開封大相国寺より日中佛法興隆・両寺友好の記念として寄進を受けた梵鐘を釣る為、平成二十二年九月二十一日に起工式を行い(円明第九十五号参照)、法堂西側の鎮守社横に建設が進められてきたものである。法要後には、管長猥下、韜光室老大師、



山本宗務総長、荒木庶務部長による除幕式と列席者によるつき初めも行われた。



○暁天講座

八月二日、三日の二日間、承天閣美術館二階講堂ならびに大書院において、恒例の暁天講座が室町市政協力委員会との共催により開催された。方丈が屋根葺き替え工事のため、坐禅と講演の会場は本年より承天閣美術館二階講堂となった。午前五時半より六時まで坐禅、その後一時間の法話。大書院にて粥が振る舞われ、七時二十分に解散となった。本年の講師は、二日が有馬頼底管長猥下で演題は「日日新」、三日は武者小路千家





有馬管長祝下法話



千宗守氏講演

第十四代家元千宗守氏をお迎えし、演題は「水を読む茶の湯と名水について」であった。両日合計で二百五十人を超える参加者があり、盛況であった。

○中国佛教協会 傳印会長一行表敬訪問

八月二十三日、中国佛教協会の傳印会長以下二十七名の同協会の中国幹部僧侶、役員らが来山し、相国寺並びに管長祝下を表敬訪問した。当日は、本山側僧侶出迎えのもと、承天閣二階講堂で挨拶、記念品の相互贈呈が行われ、和やかなもと懇談をした。

その後、中国大相国寺より寄進され八月一日に落慶法要を行った「天響楼」(前述)へ移動し、鐘楼の披露がなされ、管長祝下と傳印会長が鐘を撞き、次いで大相国寺釋心廣住職らが順に鐘の音を響かせた。

一行の来日目的は、日本佛教界各宗派との交流促進や発展、東日本大震災犠牲者追悼法要を行うため、京都の他に奈良、福井、東京の各寺院を訪れた。(詳細は巻末カラー79ページ参照)

○臨黄合議所理事会並びに禅文化研究所役員会

九月七日、臨黄合議所理事会、並びに禅文化研究所理事評議員合同役員会が開催され、山本宗務総

長、佐分財務部長が出席した。主な議案は平成二十八・二十九年度に行う予定の臨濟禪師一一五〇年遠諱・白隱禪師二五〇年遠諱事業についてであった。

○二十三年度秋期特別拝観

九月十五日より平成二十三年度の秋期特別拝観が開始され、法堂、開山堂、宣明(浴室)が一般に公開された。今回より、法堂須弥壇上の釈迦三尊像のライトアップ照明機器が一新され、より美しい状態で来場者に見て頂けるようになり好評であった。会期は例年通り十二月八日まで、会期中の参拝者は一八、七三四名であった。二十四年度春期特別拝観は、三月二十四日から六月四日の予定である。

○原田吉蔵氏追善茶会

九月二十四日、東京美術倶楽部に於いて鹿苑寺東京別院の旧所有者である故原田吉蔵氏追善の「東茶会」が台風一過のもと開催された。当日は追善法要後、管長祝下が濃茶席席主をつとめられ、同氏を偲ぶ約四百五十名の参加者があった。

○第九回管長猥下御親教

九月二十七より二十九日まで、平成二十三年度管長猥下御親教が行われた。本年は昨年に続く島根県第五教区の五ヶ寺と鳥取県第三教区の一ヶ寺を巡り、三日間とも好天に恵まれた。二十七日は、西光院(金森則融住職)、興善寺(周藤隆道住職)、東光寺(勝部大義住職)の三ヶ寺、二十八日は萬福寺(福場宗康住職)、靈雲寺(三代政道住職)の二ヶ寺、二十九日は南苑寺(小野塚越山住職)を訪れ、山本宗務総長、矢野教学部長、江上教学部員、荒木教学部員が同行した。

(詳細は巻頭カラー2ページ参照)

○東京別院庫裡新築工事地鎮・起工式

十月十一日、東京南青山の相国寺東京別院において庫裡新築工事地鎮・起工式が挙行された。当日は山本宗務総長、佐分財務部長、澤鹿苑寺執事長、和田財務部員のほか、別院監護の中村氏夫妻、工事関係者ら十名余りが列席し、総長導師のもと諷経、焼香、四方固めが行われた。庫裡の竣工は

平成二十四年五

月の予定で、東京維摩会などの坐禅会や各種研修用に多目的利用の部屋を備えることになっている。また竣工後は、別院本堂の新築工事に取リかかる予定である。



起工式で鍬入れを行う山本宗務総長

○第二十三回相国会本部研修会

十月十三より十四日まで、第二十三回相国会本部研修会が行われた。同会は二年に一度の開催で、今回は一教区一名、二教区十二名(引率和尚竹林寺牛江宗道住職)、三教区三名、四教区七名(引率和尚 円福寺田中大真住職)、五教区七名の総勢で三十名が参加した。開講式、山本総長挨拶に続き、

管長猥下による垂示があり、教学部指導のもと坐禅を行った。その後、天龍寺派薬師寺住職で鍼灸師の樺島勝徳師より「和尚さんが指南する身



樺島勝徳師による身体講座実践

体講座」という題で、骨盤と体の中心軸の補正などを参加者と共に実践するご講演をいただき、参加者には大変好評であった。翌日は五時半起床後、朝課、坐禅、粥座、閉講式を行った。またこの日は教王護国寺(東寺)の特別拝観を行い、金堂、講堂、小子房、観智院を見学し、京都駅ビル内にて齋座、無事円成散会となった。

次回の研修会は、平成二十五年に開催の予定である。

○開山忌

開山夢窓国師の毎歳忌法要が十月二十日(宿忌)、二十一日(半齋)の両日にわたり厳修され、四教区より八十九名(寺院八名)、五教区より四十名(寺院一名)の団参があった。

二十一日は、九時より法堂において頼光室老大師導師のもと献粥諷経にはじまり、諸堂焼香、奠供十八拜が行われ、引き続き檀信徒、本派寺院の順に入堂し、管長猥下導師のもと出班焼香に引き続き楞嚴呪行導が厳修された。

管長香語は左の如し。

開山忌毎歳忌香語

道光驚目耳根聾 道光目を驚し、耳根聾す
凜冽栗肌洛外風 凜冽肌を粟たす、洛外の風
欲挙大円千古徳 大円千古の徳を、挙げんと欲せば
報秋一葉寂林叢 秋を報ず一葉、林叢に寂たり
頼底九拜
定中昭鑑

○臨黄合議所総会

十月二十五日、妙心寺花園会館において臨黄合議所総会が開催され、内局より山本宗務総長、荒木庶務部長、佐分財務部長、矢野教学部長が総会、総長会、各部長会に出席した。

○東京椿山荘内三重塔落慶・聖観世音菩薩入仏開眼法要

十月三十一日、東京椿山荘(藤田観光株式会社所有)内にある三重塔の落慶法要が厳修された。平成二十二年九月十七日に行つた解体修理起工式(円

明第九十五号参照)より進められてきた修理が、この度完了したことによるもので、管長猥下はじめ山本宗務総長、他一山和尚八名が出頭した。

当日は、新たに管長により「圓通閣」と名付けられた三重塔前において献花・献茶、諷経が行われ、合わせて塔内に新たに京仏師の宇野孝光氏に依つて納められた聖観世音菩薩立像の入仏開眼も行われた。法要後は、椿山荘内において記念の祝齋が行われた。(詳細は巻末カラー80ページ参照)

落慶祝語は左の如し。

祝語

人天月落暗昏々 人天月落ちて、暗昏々
五濁衆生仰紺園 五濁衆生、紺園を仰ぐ
奉納円通大慈眼 奉納す、円通大慈の眼
山河草木尽乾坤 山河草木、乾坤を尽くす
大龍叟

○玉龍院寺庭逝去

十月二十九日、玉龍院(坂根孝慈住職)寺庭の坂根サダ氏が八十七歳で亡くなられた。氏は昭和四十年より長きにわたつて寺庭として住職をよく支え、寺院の護持、布教などに長年尽力し、寺院発展に勤められた。今般疾により加療するも薬石功無く天寿を全うされた。通夜は十一月一日に山本宗務総長導師のもと、告別式は翌二日に管長猥下導師のもと厳修され、一山尊宿、縁故在家など多くの参列者があつた。

○二教区団参

十一月四日、第八回二教区団参が行われ、二教区支所長牛江宗道竹林寺住職、吉田弘道福性寺住職の引率により三十一名が参加した。大書院において矢野教学部長の開会の辞、諷経、山本宗務総長と波多野第二教区支部長の挨拶があり、その後管長猥下の法話を拝聴した。本山食堂で上幸の精進料理による昼食後、法堂・開山堂・宣明(浴室)・承天閣美術館を特別拝観して無事散会となった。

○第三十一回寺庭婦人研修会

十一月八日より九日まで、第三十一回寺庭婦人研修会が行われた。八日午後十二時半参集、一時より大書院で本尊・開山各諷経後、山本宗務総長の開会挨拶と管長猥下訓示があり、記念撮影のあと全員で坐禅を行った。

また三時から一昨年に引き続き関西大学文学部原田正俊教授による「江戸時代における檀家制度の展開」という演題で講演があり、大変好評のうちに終了した。



翌九日は修了式後、大津市堅田の浮御堂で知られる大徳寺派満月寺を特別拝観し、琵琶湖上にある浮御堂や観音堂を見学後、本堂では全員で開山諷経を行った。続いて同市坂本の天台宗滋賀院門跡に移動し、宸殿・書院・庭園などを特別拝観し、内仏殿で諷経。最後に、京都市山科区の「わらびの里」に移動し昼食をいただき、無事に帰山散会となった。



原田正俊氏講演

今回は各教区より二十二名の参加があった。

◆参加者名簿(教区・台番順)

- 第一教区 澤 万里子・澤 洋子(林光院)
山木佐恵子・山木喜要子(普廣院)
- 久山 順子(慈照院)
- 荒木 寛子(光源院)
- 草場 容子(慈雲院)
- 佐分 厚子(豊光寺)
- 江上 正子(眞如寺)
- 第二教区 久山 華子(大應寺)
- 鈴木 典子(長栄寺)
- 第四教区 加藤 祐生(南陽寺)
- 本田 節子(園松寺)
- 田中智津子(円福寺)
- 石崎 典子(海岸寺)
- 第五教区 福場由紀子(萬福寺)
- 第六教区 矢野 志保(南洲寺)
- 芝原由紀子・芝原 聖子(感應寺)
- 近藤 洋子(良福寺)

松本三津子(光明寺)
松下 知子(永徳寺)

○東京維摩会

平成二十四年の開催日は左記の如くである。

管長坐禅会

※東京別院改修工事により暫く休会と致します。

老師坐禅会

- 一月七日(土) 二月四日(土)
- 三月十日(土) 四月十四日(土)
- 五月十二日(土) 六月九日(土)
- 七月二十一日(土) 八月四日(土)

時間：午後一時より二時半迄

内容：「臨濟録」提唱、坐禅、茶礼

威儀：袴を貸与するも、足りない可能性があります

で、ゆつたりとした服装でお願い致します。

《お知らせ》

老師坐禅会は、東京別院改修工事により、次の場所で開催中です。

財団法人 仏教伝道協会

〒108-0014 東京都港区芝四丁目3-14
TEL(03)3455-5851

●アクセス

JR山手線・京浜東北線 田町駅 三田口(西口)より 徒歩6分
都営地下鉄三田線・浅草線 三田駅 A9番出口より 徒歩2分

※駐車場はございません。

※両坐禅会とも、東京別院での開催日は、

次号でお伝えする予定です。

第一教区

○相国寺塔頭光源院行者講東光山岡寺参拝

毎年六月に大峰山に入峰修行する相国寺信心
 教社第一号連山組にて、光源院住職荒木元悦和尚
 は、住職以来昨年六月で四十四回目の入峰修行を
 無事終えられた。昨年六月十日午前九時より光
 源院行者堂において前行、道中安全、家内安全の
 祈願を役員及び今回の院号授与者の他多数の参
 拝者を行う。

翌日十一日午前六時堀川今出川出発。貸切バス
 二台に八十三名と共に新緑の大和路を洞川に向
 かう。十時すぎ洞川西村清五郎旅館着、早めの昼
 食後直ちに入峰する。今回ははげしい梅雨の中、
 新客七名と共に大雨の中を山上に向かう。新客
 は全員西の覗のみ行をし、その他の行場は雨の為

中止となる。終わって全員本堂にて勤行、参詣後
 無事下山。西村清五郎旅館にて宿泊。

十二日午前五時半起床、六時竜泉寺にて新客全
 員と共に般若心経三巻をとえながら水行をする。
 終わって朝食を取り洞川を出発。奈良御所市茅原に
 ある役行者誕生所茅原山吉祥草寺参詣し、ホテルウ
 エルネス大和路にて昼食、その後西国第七番観音霊
 場東光山岡寺参詣、写真撮影、了而明日香を後に
 宇陀温泉郷保養センター「美榛苑」にて小宴を開く、
 午後六時美榛苑出発、午後八時堀川今出川に無事
 全員帰着、万歳三唱をして目出度く解散する。

茅原山吉祥草寺

吉祥草寺は修験道の開祖・役行者神変大菩薩御
 誕生の霊地にして第三十四代舒明天皇の創建、
 役小角の開基である。境内に役行者御降誕の際、

産湯の清水を汲んだ役行者産湯の井戸が現在も
 保存されている。

吉祥草寺の寺名の由来は役行者が幼少の頃、土
 で作った小さな仏像を吉祥草の葉を用いて「草庵」
 を制作し納めた事をこの寺の初めとして、吉祥草
 寺と名付けられた、今も吉祥草が保存されている。
 境内は江戸末期まで五キロ四方で四十九院の伽
 藍を有していた。

第二教区

○支部総会

六月十八日午前十一時より、亀岡大雲寺に於て
 定期支部総会が二十三名の檀信徒と住職の出席
 で開催された。来年度より管長猥下の御親教が
 始まるので、十二分の準備がなされるよう要請が
 あった。会議を終えて、花園妙心寺門前にあると
 言う「お多長」の精進料理を愛でながら歓談して
 散会した。



○第八回二教区本山団体参拝

十一月四日晴天の下、午前十一時より本山団参が檀信徒と住職三十一名が参加して開催された。般若心経を全員で唱和したあと、山木康稔宗務総長の挨拶、波多野諦観支部長の挨拶とつづき、管長猥下の法話を賜った。

若冲居士の描いた「動植綵絵三十幅」についてのお話をおもしろく拝聴した。昼食のあと、諸堂拝観、承天閣美術館を見学したあと、全員無事下山した。

第三教区

○天龍寺派一行、瑞林寺訪問

瑞林寺(高山宗親兼務住職)では、九月一日天龍寺派佐々木容道管長猥下をはじめ、梅宗務総長他天龍寺一山関係者一行十一名が、開山夢窓国師生誕ゆかりの地ということで、台風十二号の接近中にもかかわらず開山諷経に訪れた。

一行はお昼過ぎに瑞林寺にご到着、夢窓国師生

などについて協議。

○寺庭婦人会 奉仕作業

九月二十七日、特別養護老人ホーム楊梅苑に於いて実施。

○住職研修会

(於・善應寺)

十月六日、午後二時半より本山から瑞春院住職須賀玄集師、光源院副住荒木泰量師をお招きして、第二回第四教区住職研修会を開催。

前回到引き続き、本山の法式について研修。開山忌独特の楞嚴呪の節回しについて、凡そ二時間にわ



記念碑前で諷経する天龍寺派佐々木容道管長一行

誕地記念碑前において大悲呪一卷立諷誦及び開山回向諷経の後本堂で茶礼休憩、歓談後無事帰山された。
相国寺と天龍寺は夢窓国師を同じ開山としてい

第四教区

○宗務支所 支所会(於・善應寺)

七月十一日、お盆行事調整及び本山開山忌団参



たつての大変有意義な研修会となりました。

○宗務支所 開山毎歳忌団参

十月二十一日、相国会会員、住職、総勢八十九名が参拝。本山法要参拝後、泉仙大慈院店にて昼食、精進鉄鉢料理をいただき、詩仙堂、銀閣寺を拝観。

第五教区

○出雲相国会 夏休み坐禅会

七月二十七日に恒例の「夏休み親子坐禅会」を西光院(金森則融住職)で開催。子供、大人、役員合わせて七十名以上が参加。西光院新命和尚、東光寺新命和尚の指導で坐禅。坐禅終了後、坐禅和讃を唱和。子供達には参加証が手渡されました。休憩後、指導員の方の指導で色々な遊びを子供、大人一緒になって楽しみました。

第六教区

○良福寺先代住職齋会

良福寺(近藤永進住職)では、九月十四日に先代住職近藤兆祥和尚の十七回忌の齋会が厳修された。

六教区の各寺院と兆祥和尚が徒弟生活を共にした大生寺(福岡・妙心寺派)関係や花園大学の同窓生のご寺院方等二十名程の参列であった。

尚、新任職永進和尚は檀信徒と一丸と成って先師兆祥和尚の発願であった本堂、庫裏建設の大事業に邁進中である。

○廣護寺先代住職齋会

廣護寺(井上宗光副住職)では、十月二十八日に先代住職井上義堂和尚の壹周忌法要が、教区支所長導師のもと教区寺院、兵庫県本派法雲寺住職、寺族、親族、総代役員が参列し、楞嚴呪行導・塔参諷経が行われました。



<p>創業明暦年間</p> <p>七味家</p> <p>株式会社 七味家本舗</p> <p>〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221 TEL (075) 551-0738 / FAX (075) 531-9352</p> <p>ゴヨウハシチミヤ</p> <p>0120-540738</p> <p>9:00~18:00(冬季は9:00~17:00)</p> <p>http://www.shichimiya.co.jp/</p>	<p>精進料理</p> <p>うえ</p> <p>上</p> <p>ころ</p> <p>常</p> <p>〒604-8356 京都市中京区大宮通錦上ル 電話〇七五八二一三三七二</p>
---	--

<p>大本山相国寺御用達 御法衣・仏具 (株)後藤利法衣店</p> <p>〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル 電話(075)221-4587 FAX(075)223-0094 フリーダイヤル(0120)014587</p>	<p>臨濟宗御法衣調達 大本山相国寺御用達 湯浅法衣店</p> <p>〒606-0905 京都市左京区松ヶ崎杉ヶ海道町5-24 電話(075)705-2772 FAX(075)705-2773</p>
<p>大本山相国寺御用達 庭園 設計・施工 樋口造園(株)</p> <p>〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル 電話(075)462-1385 FAX(075)464-6120</p>	<p>大本山相国寺御用達 精進料理 矢尾治</p> <p>〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358 電話(075)841-2144 FAX(075)841-2110 http://kyoto-shoujinryouri-yaoui.homepage.jp</p>
<p>總本山御用達 藤安田念珠店</p> <p>本店・〒604-8072 京都市中京区寺町六角角 電話(075)221-3735(代表) 東京・札幌・福岡 各営業所</p>	<p>文化財堂宇修復保存 大本山相国寺御用達 社寺建築 設計・施工 数寄屋建築 澤甚株式会社 澤野工務店 SAWANO</p> <p>本社 〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入 TEL(075)561-5394(代) FAX(075)533-3775</p> <p>山科事務所・工房 〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL(075)541-1257(F)</p>
<p>貴重な御法衣の御用は 大本山相国寺御用達 後藤新助法衣仏具店</p> <p>〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地 電話(代表)(075)462-3915番 ファクシミリ(075)462-3616番 URL http://www.rinzai.jp E-mail: rinzai@rmail.plala.or.jp</p>	<p>大本山相国寺御用達 社寺建築 (株)北村誠工務店</p> <p>〒603-8225 京都市北区紫野南船岡東町45 電話京都(075)441-0563 FAX京都(075)441-0571</p>



● 編集後記 ●

平成二十四年を迎えるにあたり、相国寺派檀信徒の皆様のご健勝を祈念申し上げます。昨年は東日本大震災、台風、集中豪雨など自然の猛威をまざまざと見せ付けられ、あるいは原発事故の目に見えない恐怖にさらされました。そして天災からの復興や放射能汚染の除去に今後どれだけの時間と経費、人力がかかることか。被災地の方々の出口の見えないご苦勞に、私たちは途切れることのない支援の手を差し伸べていかねばならないと痛感します。

さて昨年第五教区、第三教区の御親教を無事に終えました。その折には各支所寺院、檀信徒の皆様は大変お世話になり、誠に有難うございました。これで京都府下以外の末寺は、全て巡教を終えました。本年からは第二教区を回る予定です。

今年の干支は壬辰です。陰陽五行では土剋水にあたり、これは土が水を吸い取り、常にあふれようとする水を堤防や土塁等でせき止める意味があります。復興に向け明るい歳であることを願わずにはられません。

どうか本年も宜しく願い申し上げます。 (矢野謙堂 記)

平成24年1月1日

発行所/ **大本山相国寺・相国会本部**

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701 TEL075-231-0301 FAX075-212-3591
URL <http://www.shokoku-ji.jp> E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp (教学部)



二条城のほとりに
寛ぎがある

京都全日空ホテル

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前
ご予約、お問い合わせは (075) 231-1155
<http://www.ana-hkyoto.com>



社寺庭園・町屋庭園・露地庭
作庭 管理



長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3
電話 (075) 872-0005 FAX (075) 872-0004

印刷を極め、印刷を超える

生産力と機動力、開発力と発想力をもって
「新しい社会に貢献する企業」を目指します。



情報セキュリティマネジメントシステム
ISO27001:2005

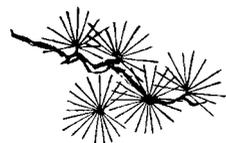


日本水なし印刷協会
認可工場 (環境保全対策)

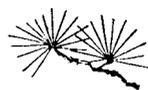
ヨシダ印刷株式会社 京滋営業所

〒604-8277 京都市中京区西洞院通り御池下ル三坊西洞院町572-4 NOA高松殿ビル6階 TEL.075-252-5421
[本社]金沢 [支店・営業所・工場]東京・金沢・大阪・富山・福井・京都・静岡 URL <http://www.yoshida-p.jp/>

www.shoyeido.co.jp



香



大本山相国寺御用達

香老舗 松榮堂

京都本社 / 京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590 FAX 075-212-5595
東京支店 / 東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307 FAX 03-3639-4969
札幌支店 / 札幌市中央区南 8 条西 12 丁目 3-6 TEL 011-561-2307 FAX 011-563-3502

京都本店 産寧坂店・大阪本町店・銀座店 人形町店 青山香房・札幌店

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為努力しています

電気設備工事・消防設備工事

A DACHI 足立電気工業株式会社

〒601-8045
京都市南区東九条西明田町34-21
TEL 075-681-4461 FAX 075-681-9767
E-mail: adachi-d@guitar.ocn.ne.jp

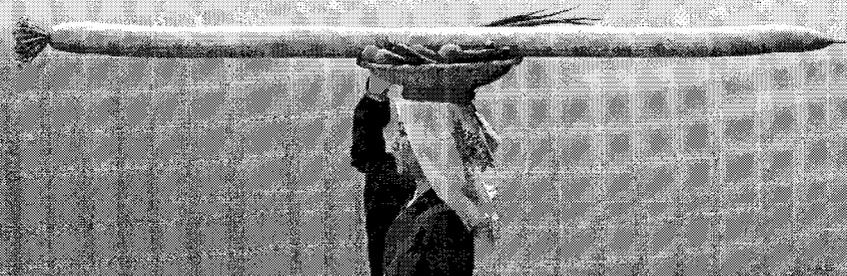
御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷
華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

各大本山御用達

橘兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側
電話 (075) 221-0934 番 振替京都 01090-4-3476

なが——い、おつきあい。



貯める、運用する、借り入れる、積み立てる、備える、管理する…
京都銀行は、人生のさまざまなシーンで皆様を応援します。お気軽にご相談ください。

飾らない銀行

 **京都銀行**
<http://www.kyotobank.co.jp/>

大本山相国寺御用達

京 表 具

絵画・墨跡・織物・修理・一般表具一式
宗紋襖紙・御殿引手 発売元

こう えつ あん
浩 悦 庵

古文化財保存修理研究所
矢口浩悦庵

本社・工房 〒602-8025 京都市上京区衣棚通り丸太町上る今葉屋町318
TEL(075) 254-6021(代)・FAX(075) 254-6022
東京営業所 〒203-0014 東京都東久留米市東本町9-9 TEL・FAX(0424)72-6239

<http://www.koetsuan.com> E-mail:office@koetsuan.com

あなたの、豊かな 人生のために。

三菱UFJ信託銀行のライフプラン・コンサルティング

三菱UFJ信託銀行は資金運用をはじめとする、
資産全般にわたる運用のご相談を承ります。

資金の運用

不動産のご相談

資産の管理・承継



三菱UFJ信託銀行 京都支店

〒600-8006
京都府京都市下京区四条通高倉東入立売中之町85

TEL.075-211-7161

届出第6号 (社)不動産協会会員 (社)不動産流通経営協会会員
(社)首都圏不動産公正取引協議会加盟

電話受付 / 平日9:00~17:00(土・日・祝日等を除く)

Your Global Lifestyle Partner
 ~お客様の感動を創造します~

国内旅行

宇宙旅行

海外旅行

大会幹旋

JTB

JTB西日本団体旅行京都支店

〒604-8152 京都市中京区烏丸通錦小路上ル手洗水町 670 京都フクトクビル 5 階
TEL:075(241)0139 FAX:075(255)6564
 (営業時間 9:30~17:30/土・日・祝日休業)



二条城前のロケーション

温かいおもてなしでくつろぎのひとつときを...

お食事・ご婚礼・各種パーティーに
 ぜひご利用下さいませ

京都国際ホテル

〒604-8502 京都市中京区堀川通二条城前
 TEL.075-222-1111(代)
<http://www.kyoto-kokusai.com>



先人たちの賜物を伝えていく仕事。

デジタル再製画「伝匠美」 www.dnp.co.jp/denshoubi/

DNP

大日本印刷株式会社 www.dnp.co.jp

抹茶

全国並びに関西茶品評会 第一位
 自園茶農林水産大臣賞 29 回受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶 萬年の翠

御薄茶 常光



大本山相国寺御用達

宇治 久小山園

京都府宇治市小倉町寺内八六番地
 お問い合わせ(0774)20・0909
 ・シユイアール京都伊勢丹店
 地下一階 銘茶コーナー
 ・西洞院店 茶房「元庵」水曜休館営業
 京都市中京区西洞院通御池下ル
 電話(075)223・0909
 「取扱店」全国有名茶店・茶道具店
<http://www.marukyu-koyamaen.co.jp>

本年度は、相国寺研究として、昨年新設された相国寺史編纂室の研究員、藤田和敏氏による三回の研修会を開催いたしました。藤田氏は平成十九年大谷大学博物館に古文書の整理を委嘱した時から作業に携わり、相国寺文書の全貌を把握してこられたということで、「相国寺本山所蔵古文書の全貌と新出史料の紹介」と題してその概要を紹介して頂きました。

三回の講座内容は次の通りでした。

第一回 平成二十三年十一月七日(月)

「相国寺本山所蔵古文書の概要―主要史料の紹介」

第二回 平成二十三年十一月十五日(火)

「江戸時代における臨濟宗の本末関係と

相国寺―天明末寺帳を中心に」



第三回 平成二十三年十一月二十二日(火)

「五山と林下の訴訟から本末関係と師弟関係を考える―東福寺・妙心寺末寺訴訟一件をめぐって」

いずれも 講義Ⅱ一時―二時半 質疑Ⅱ二時四十分―三時十分 場所Ⅱ相国寺承天閣二階講堂

次回は、もう一名の研究員、中井裕子氏に研究発表をして頂く予定です。

今後は、近世、近代から現代に至るまでの相国寺の歴史を、経済、人事、運営等の視点から明らかにしていきたいと考えています。これまでほとんど手つかずであったこれらの歴史の分野に光を当て、研究成果を発表して頂きます。相国寺派和尚を始め多くの方々のご参加をお待ちいたします。

現代問題を扱った研修会は、本年二月より佐藤優氏を迎え、四回の講座を予定しています。佐藤氏の略歴はつぎのとおりです。

●佐藤 優氏

略 歴

一九六〇年東京都生 同志社大学大学院神学研究科終了後、外務省入省。

作家、元外務省主任分析官。外交官を務めるかたわら、モスクワ国立大学哲学部、東京大学教養学部で教鞭をとる。

- 『国家の罨』(二〇〇五年三月 新潮社、毎日出版文化賞特別賞)
『自壊する帝国』(二〇〇六年五月 新潮社、大宅壮一ノンフィクション賞、新潮ドキュメント賞)
『国家論』(二〇〇七年 NHKブックス)
『はじめての宗教論右巻―見えない世界の逆襲』(二〇〇九年十二月 NHK出版生活人新書)
『はじめての宗教論左巻―ナシヨナリズムと神学』(二〇一一年一月 NHK出版新書)

長く政治に関わってこられた経験を元に語られるその論旨は説得力があります。又近著「初めての宗教論 右巻、左巻」で論じられた基督教に関する考察は我々宗教者が学ぶべきものがあり、示唆に富んでいます。今回の講座では政治と宗教に関わる問題を提示していただきたいと思っています。日程と表題は次の通りです。

第一回 平成二十四年二月八日(水)

「危機の時代における宗教」

第二回 平成二十四年三月二十八日(水)

「救済宗教の特徴」

第三回 平成二十四年五月十六日(水)

「民族と宗教」

第四回 平成二十四年七月四日(水)

「国家と宗教」

いずれも 講義Ⅱ午後一時三十分―三時 質疑Ⅱ午後三時十分―四時四十分 場所Ⅱ相国寺承天閣二階講堂

自らの資質の向上の為、ひいては相国寺派発展の為にも多くのご参加をお待ちしております。

いずれの講座もお申し込みは、住所、氏名、電話番号、寺院の場合は宗派、寺院名を明記の上、相国寺教化活動委員会宛お願いいたします。又、相国寺派ホームページからお申し込みできます。

相国寺派のホームページが、新しく更新されました。皆様のご意見をお寄せください。

講義録をご希望の方は、手数料一千元を添え相国寺派宗務本所内教化活動委員会宛にお申し込みください。

申込先 相国寺教化活動委員会

〒六〇二一〇八九八

京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一

電話〇七五―二三二一〇三〇一

FAX〇七五―二二二三五九一

ホームページ(<http://www.shokoku-j.jp>)



傳印会長への記念品贈呈



本山に到着された中国佛教協会御一行



天響楼で鐘をつく傳印会長と有馬管長



中国佛教協会より記念品を受ける

今こそ人間の生き方の根底に立ち還る
『知足』と『無心』の哲学！



「初めて有馬頼底老師とお会いしたとき、その包み込むようなやさしさに心を打たれ、また、分け隔てのない、齒に衣着せぬお話ぶりに感歎いたしました。
東日本大震災後の混乱の時代を生きる現在だからこそ、私たちは、有馬頼底老師のお言葉に心を洗われ、明日を生きる力を手にすることができるよう。」

読売ジャイアンツ終身名誉監督

長嶋茂雄氏

- 特別監修 有馬頼底 監修 京都仏教会
- 書籍1冊「B5判 本文120頁」・DVD3巻「各66・53・82分」
- BOX入り豪華セット
- 定価19500円(税込) ※セット販売のみ

臨済宗相国寺派管長
京都仏教会 理事長

有馬頼底

明日への遺言
相国大龍

丸善出版株式会社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17 神田神保町ビル
書籍営業部 TEL 03-3512-3256 FAX 03-3512-3270 <http://pub.maruzen.co.jp>

丸善 DVD
アナネット VIDEO

この度、相国寺派有馬頼底管長猥下の特別監修による書籍・DVDセット『明日への遺言』が発売されることになりました。
ご購入のお問い合わせは、上記もしくは各書店まで。
※相国寺派宗務本所での取り扱いは致しません。



今回塔内に納められた聖観世音菩薩像
(写真提供/藤田観光株式会社)



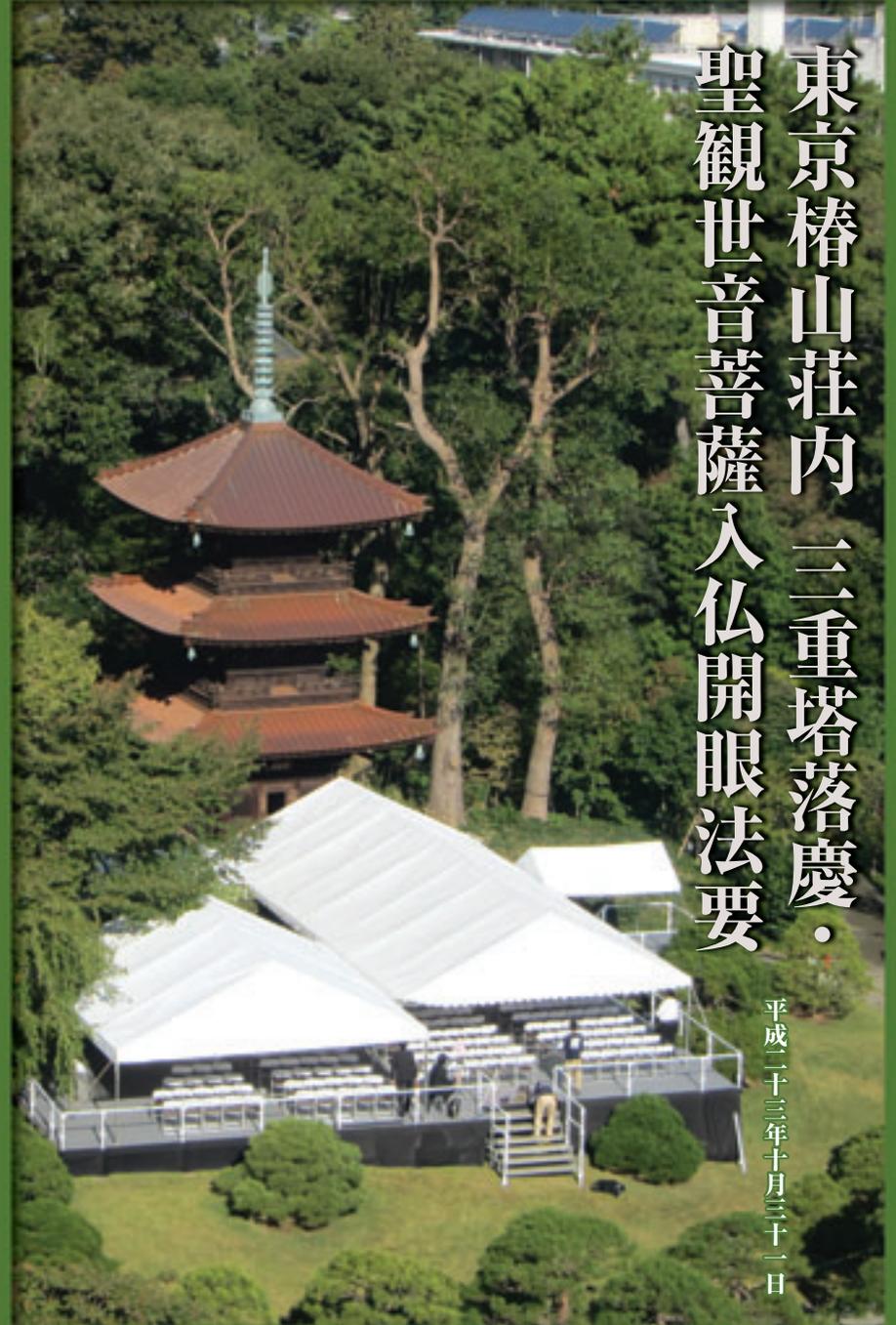
献茶を行う有馬管長 (写真提供/藤田観光株式会社)



献花を行う佐野珠實氏



有馬管長導師のもと厳修された落慶法要 (写真提供/藤田観光株式会社)



東京椿山荘内 三重塔落慶・ 聖観世音菩薩入仏開眼法要

平成三十三年十月三十一日

三重塔落慶法要会場

承天閣だより

Jotenkaku Museum

相国寺・金閣・銀閣 名宝展開催

(於久留米有馬記念館)

平成二十三年十月二十九日から十一月二十三日まで、福岡県久留米市の有馬記念館に於いて「禅宗文化の精華・若冲の彩・茶陶の美―相国寺・金閣・銀閣名宝展」が開催された。承天閣美術館に収蔵されている相国寺・鹿苑寺・慈照寺に伝来する墨蹟・絵画・茶道具等約四十点を出品展示。地元近郊の多くの茶道ファンや絵画ファンで連日にぎわった。記念館へは承天閣鈴木局長が展示指導に向出し、開会式には管長猥下がテープカットと講演に出杖された。

久留米の地は管長猥下の先祖有馬家が、江戸時代を通し代々藩主として治めた。また管長御自身も少年時代、市内の西国分小学校で学ばれたこともある縁故のある地。地元には大龍会などの講があり、管長猥下が毎年茶会や講演会等に訪れられている。



現在の展観

俵屋宗達筆 葛の細道図屏風修理完成記念

館蔵の屏風絵展

平成二十四年三月二十日まで

よみがえる宗達のモダンリズム、長谷川等伯・伊藤若冲・長沢芦雪他屏風・襖絵。杉戸等障屏画の名品を一堂に展示。

次期展観予告

七類堂画伯

「仏画・道釈画の世界」

平成二十四年四月七日～六月十日

広島県尾道在住の画家七類堂天谿は、若くより禅に入り、有馬頼底管長に師事。管長より天谿の号を受ける。当代随一の道釈画家。



白象唐子図屏風

長沢芦雪筆 六曲一双 江戸 鹿苑寺蔵(右隻)

白象と唐子の組み合わせ。背中に乗る者、頭をなでる者、鼻をさわる者、足をさわる者、尻尾をさわる者。表情は皆楽しそう。象も心地よいのか、かなりくだけた表情である。

象は古来より仏教説話によく登場する。古代印度で、盲目の人達が各自象に触れたと云う。すると、足を触った人、尻尾を触った人、腹を触った人、耳を触った人達が別々の感想を述べた。自分が手を触れたのは、象の体の一部であったが、それが象の体そのものであると認識してしまった、と。「一部分だけの見解ではいけない、真理を会得するためには全てを観なければならぬ。」との仏教の教えにある。どうもこれに画材を得たようである。

(『長阿含経』等の仏典より。)

長沢芦雪(一七五四～一七九九)は山城(京都府)淀藩士上杉和左衛門の子息。円山応挙に師事し、機知にあふれた鋭い個性的な表現を見せ、応挙門下に異彩を放った。

解説／承天閣美術館事務局長 鈴木景雲



写真は右隻

現在承天閣美術館にて展示中

とわ
永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

株式会社 石 杖 都 みやこ



代表 坪田 忠男

年中無休 営業時間/AM8:30~PM6:00 (日曜日PM5:00まで)

本 社：〒603-8103 京都市北区小山北玄以町 24 番地 ヨクソ ヨイシ
(上賀茂橋西詰バス停前) 電話(075)491-4114(代)
工 場：京都市北区上賀茂神山 389 番 24 電話(075)702-2440
(洛北病院バス停前)
夜 間：京都市左京区岩倉南池田町 117 電話(075)702-8814

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。



心のすがた

直心是道場

素直な心で修行すれば、
即その場が道場となる

撮影◎光源院副住職 荒木泰量
(ベトナムハノイ市内)